

2023 A セメスター  
郷原佳以教官

# 記号論

第4回(10/30)～第11回(12/25)

ソシュールの記号論～構造主義(レヴィ・ストロース)

文責:矢島(文科三類5組)

## テーマ①) ソシユール以降の言語学

### 【基本用語解説】

共時言語学…ある一時期における言語の要素間の関係を体系的に研究する言語学の部門のこと。

通時言語学…言語が、ある状態から次の状態に変化する様子を研究する言語学の部門のこと。(⇔共時言語学)

共時態…歴史を考慮しない、ある時点での言語の秩序のこと。

通時態…共時態が次の共時態へと変化するすること。

### ポイント①) ソシユールの言語学が新しかった点は？

ソシユール以前の言語学は、単語や構文といった個別の要素の歴史的(通時的)変遷や比較など、**通時言語学**の研究が中心であった。ソシユールは、①発話主体が語源を意識していない ②個別の要素の歴史的変遷に関わらず言語は機能していると歴史的な言語学を批判し、個別の要素がある一定時期の言語の体系において、どのように機能しているか研究する**共時言語学**をまず研究するべきだと主張した。

### ポイント②) ソシユールの生み出した概念①

#### 【基本用語解説】

ランゲージュ…抽象化能力や、カテゴリー化能力など、人間のもつ生得的で普遍的な言語能力、及び人間がそれを使って行う行為の総体。「言語能力」とも訳される。

ラング…個別の言語共同体で使用される音声や語彙、文法規則など言語体系のこと。「言語」とも訳される。

パロール…特定の話者(個人)によって発話される具体的音声の連続。つまり、個人による言語行為のこと。

ソシユールは、人間が言語を介して行う行為の総体である、「ランゲージュ」という非常に大きな概念を、ラングとパロールの2つの側面から捉え、パロールによる言語の革新を通じてのみ、ラングの変化は可能である、と考えた。

### ポイント③) 言語命名論の否定

ソシユール以前の学者たちは、「世界にまず個別の事物が存在しており、その一つ一つに名前が付けられている」という言語命名論を支持していた。しかし、この言語命名論では、「言語によって対象の切り取り方が異なる」ことが

説明できない。ex)英語の「sister」が年下、年上の姉妹を指すのに対して、日本では「妹」と「姉」に区別しなければならない。このことからソシユールは、「事物に応じて名称や意味があるのではなく、全体及び他の要素との相互関係によってのみ、個別の事物に価値が生まれ、実体や意味を生み出す。他の要素との差異、対立によってしか否定的に定義できない。」と主張した。

#### ポイント④)ソシユールの生み出した概念②

##### 【基本用語解説】

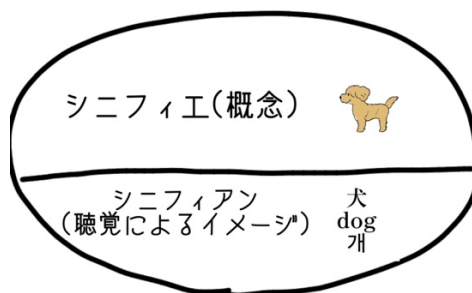
シニフィアン…指し示すもの/意味するものの意味。言葉が音として成り立つ側面。ex)「犬」「dog」「개」という言語形式、表現のこと。ソシユールは音響イメージだと定義している。

犬  
dog  
개

シニフィエ…指し示すもの/意味されるものの意味。言葉が意味を持つという側面。シニフィアンによって指し示される概念のこと。ex) 頭の中に浮かんだ犬のこと。



ソシユールは、シニフィアンとシニフィエを合わせて記号(シーニエ)だと定義した。



このとき、シニフィアンとシニフィエの間には必然性はない。例えば、犬は必ずしも「犬」と呼ばれる論理的な必要性はない。他のシーニエとの際において機能すれば、「猫」と呼ばれても「熊」と呼ばれてもよく、この呼び方は社会の慣習で決められているに過ぎない。

このように、シニフィアンとシニフィエの相互に必然的な結びつきがなく、任意である(無契的・動機づけられていない)ことを、「言語記号の恣意性」という。また、個々の記号の価値は、ラング内に共存する他の記号の対立関係にのみ決まります。(←ポイント③)そして、記号を生み出す、連続した現実の区切り方も、必然性はなく、恣意的に決定されるものです。このことを、「記号は恣意的である」と言います。

#### ポイント⑤) 範列関係と連辞関係

話される言葉は時間的及び空間的に線状的です。例えば、「私はテレビを見た」という文章の場合、「テレビ」という語は抽象的に「映像」という語を選択してもよく、また具体的に「アニメ」や「ドラマ」という語を選択しても問題ないです。このような様々な語の選択肢の中から私たちは一つだけ語を選択しており、一つの言表においては、これらの語は相互排除・対立の関係にあると言えます。この関係を、範列(連合)関係と言い、話したり書いたりするときに表面上には出てこないのが、潜在的であると言える。

一つの言表内の要素は、他の要素との関係において初めて意味を持ちます。この関係のことを、連辞関係と言い、顕在的であると言える。

#### テーマ②)ヤコブソンの音韻論

##### 【基本用語解説】

音素…単語を成立させる(意味の差異が発生する)音の最小単位で、言語によって異なる。物理学的に異なる音であれば必ず音素として区別される訳ではない。 ex)英語における thing と sing の聞き分けは日本人にとっては難しいが、これは日本語では[s]と[θ]の間に意味の違いがなく、区別を意識しないからである。

音韻論…意味の違いに注目して音を分類する方法。

#### ポイント①)ヤコブソンはソシュールの言語思想をどのように応用したのか？

ソシュールは、個々の記号の価値は、ラング内の他の記号との対立関係によってのみ生まれると主張した。(ポイント③) ヤコブソンは、この考えを利用して、音素の体系化を試みました。①音素は互いに対立関係にある ②音組織(←言語におけるラングに対応する)は、対立のシステムである ③言語によって、

音素の構成のされ方は異なる。(←言語の恣意性に対応する) ④どの言語においても、対立軸はいつも同じである という4つの規則をもとに、どんな音素の対立も二項対立によって説明可能だと考えた。そして、④の対立軸のことを、**弁別特性**という。ex) [p]と[b]、[t]と[d]における有声音か無声音かという対立

## ポイント②)ヤコブソンの言語伝達の6機能

ヤコブソンは、コミュニケーションに不可欠な6つの因子である、受信者・発信者・メッセージ・コンテキスト・コード・接触を挙げて、これら一つ一つには相異なる言語機能が対応しているとした。



### ①心情的機能

ex) 「ああ」など間投詞

話し手の驚きや悲しみを直接的に表現する機能である。

### ②働きかけ機能

ex) 「行け」など命令法、呼格など

受信者に作用を及ぼすことを目標にする機能である。

### ③指示的機能

コミュニケーションにおいて、最も支配的な機能。発話された状況(コンテキスト)に基づいており、指示対象とコンテキストを結びつけている。

### ④交話的機能

ex) 「もしもし」「ねえ」「さて」など

接触を確認するための機能。

### ⑤メタ言語的機能

ex) 「空腹」「頭痛」など

発話の焦点がコードそのものに当てられている。

ある言葉を別の言葉で言い換えること。

## ⑥詩的機能

ex) 俳句やラップなどで見られる。

メッセージそのものへの指向により、表現を際立たせる。伝えられるものではなく、伝えるその言語に指向している。

## テーマ③)レヴィ・ストロースと構造主義

### 【基本用語解説】

構造主義…人間の社会的・文化的現象の背後には潜在的に構造があるという思想。つまり、人間が自由に決定しているように見える思考や行動は、彼らが所属する社会や文化の「構造」によって決められているという考え方。

親族体系…家族を超えた集団の広がりのことを親族と呼ぶ。親族体系は生産活動・結婚・祭祀など社会生活全般に関わる組織なので、親族体系を理解することは、その社会を理解する端緒となる。

ポイント①) レヴィ・ストロースはどのようにヤコブソンの音韻論を

人類学に導入したのか？

レヴィ・ストロースはヤコブソンの音韻論を、親族体系の分析に導入した。レヴィ・ストロースは、「実体としての集団間で婚姻関係が結ばれるのではなく、婚姻関係がまず存在し、それを通じて初めて集団が形成される。」と主張した。(このとき、「集団」は「音素」に対応し、「婚姻関係」は「音素間の二項対立」に対応します。)

また、レヴィ・ストロースは、人類学者のモースの書いた「贈与論」から影響を受け、「価値があるから交換されるのではなく、交換されることによって価値が生まれる。人間社会の根底には互酬的な贈与交換があり、社会成立に不可欠である」ということを学び、「結婚も交換の一種である」という考えに至った。この考えをもとに、レヴィ・ストロースはインセスト・タブー(近親相姦の禁止)の説明を試みた。インセスト・タブーは遺伝的な悪影響を禁止するため存在すると説明されてきたが、レヴィ・ストロースは「父方のいとこの結婚は禁止であるが、母方のいとこの結婚は歓迎される」社会が多いことからこの説明に疑問を抱き、「贈与論」を用いて説明を試みた。レヴィ・ストロースは、インセスト・タブーは、同じ親族内での女性の価値を制限する(同じ親族内で結婚できない)ようにすることで、他の親族集団と女性を交換する必要性を生み出すためのものだとして定義し、このインセスト・タブーによって、初めて親族間で婚姻関係が生まれ、集団が形成されると考えた。このレヴィ・ストロース

の分析は、社会現象の裏に隠れた構造があると考え、構造主義に基づいている。同様に、レヴィ・ストロースは神話の分析にも構造主義の手法を用いた。レヴィ・ストロースは一つの実体としての神話の筋立てを追う代わりに、神話素という出来事を表す最小限の構成単位に分解し、その構成単位の間に対立関係によって組み立て直すことで神話の隠れた構造を分析することを試みた。